

ものづくりを通した高校生の社会体験活動

秋田県立大館工業高等学校
機械科教諭 草皆和幸

1 はじめに

秋田県立大館工業高等学校は、豊かな人間性と自ら学び自ら考える力である「生きる力」を育成することを目的として、全学年で体験活動を積極的に実施している。この活動の対象は、幼児とその保護者、小学生からお年寄りまでと、幅広い年齢となっており、このことが、コミュニケーション能力育成に非常に有効であると考えている。これまで本校では大館市教育委員会のご指導と関係機関のご協力によって、年間で延べ20回以上もの活動を実施することができ、思いやりの心や社会性を育くむ等、所期の目的を十分に達成することができたのではないかと考える。これまで、本校の活動を支えて下さった多くの方々に改めて感謝申し上げるとともに、今後とも、ご理解とご支援をお願いして、以下にこれまでの活動の概要を述べる。

2 これまでの活動実績（※詳細は別添資料①・②参照）

- ・高齢者や一人暮らし宅における漏電検査と照明器具や配線周り等の清掃、中学校技術の授業におけるアシスタントや小学校における出前授業
- ・大館市生涯学習フェスティバルや大館圏域産業祭において、市民を対象にしたものづくり体験コーナーの実施

また、この他にも大館市の子育て支援グループや小学校放課後子ども教室と連携し次の活動を行った。

- ・クリスマスリース及びツリー製作会
- ・簡易鋳造体験におけるペーパーウェイト製作会やアルミ缶レリーフ製作体験
- ・小型旋盤を用いたコマ作り体験

3 活動の目的

大館工業高校では下に示す3つの目的を持ってこのような活動を行っている。

- (1) 実践を通じて知識を深める
- (2) ものづくりの楽しさを広める
- (3) 高校生のコミュニケーション能力を向上させる

工業高校の目的はものづくり産業を支える人材を育成することである。このような人材を育成するためには知識や技術を身に付けさせることはもちろん、ものづくりの先には相手（お客様）がいるということを理解し、自己満足ではなく相手を満足させることが必要になってくる。そのため、校外に出てこれまでの授業の中で知り得た知識や技術を活用し、ものづくりを実践することで相手を考えたものづくりができるのではないだろうか？加えてこのような場で他者に認められる事で、自己有用感が芽生え、これまで以上に意欲を持ってものづくりに励んでくれるのではないかと考える。また、高校生と活動をすることで、ものづくりの楽しさを様々な年代の人に再認識してもらいたいとも考えている。このような活動を円滑に行うためには教える側である高校生のコミュニケーション能力が重要となる。普段の学校生活では関わりの多くが同年代であるが、就職等をして社会に出た場合は学校のように同年代における活動の場は少ない。そのため、このように異年齢との関わりの中で、自分の役割を意識して活動することで、少しでも

コミュニケーション能力を向上させ、社会の中で生きる力を身につけてほしいと考えている。

4 活動の様子及び生徒の変化について

写真はクリスマスツリー製作会の様子（図1）である。

活動に初めて参加した生徒は普段とは違う雰囲気のため、会話がぎこちなくなってしまう。しかし、時間が経つにつれ、高校生の声のかけ方などがスムーズになっていく様子が見られる。ものづくりについて、子どもは素直であるため、製作したものについての評価も非常に厳しい。そのような状況を打破するために高校生も普段以上に集中して作業を行っている。



図1



図2

このような活動を行っていく中で、他者に認められた経験から高校生が自らアイデアを出し、どうやったら相手が喜ぶのかを考えてものづくりに取り組む姿が顕著に見られる。図2にあるバッテリーカーは、本校工作部の生徒が、小学生や幼稚園児には車などの動くものが喜ばれるのではないかと考えて製作したものである。大館市圏域産業祭等において実際に乗車してもらうことで新たに改善点を見つけ、現在も改良を重ねている。

5 おわりに

先にも述べた3つの目的を持って、大館工業高校ではこのような社会体験活動に積極的に取り組んでいる。ありがたいことに、声をかけてくださる団体等も年々増加しており、徐々に活動の幅が広がってきている。これによって発展途上である高校生にとって非常に良い経験をする事ができている。このようなことから目的の1つであるものづくりの楽しさを広めるといった目的についてはある程度達成できているのではないかと考えている。また、活動に参加してくださった方々からの温かい言葉や笑顔が高校生のものづくりへの意欲や知識の深化、コミュニケーション能力の向上につながっていると感じている。このような体験を通し、他者に認められ、必要とされることで自己有用感が芽生え、自分自身に自信をもつことができているのではないだろうか。このものづくりを通した社会体験活動が更に充実したものになるよう、各方面からの意見や要望を踏まえつつ、今後も継続的に活動を行っていきたい。